



団体名 **かりやマーブルタウン実行委員会**

事業名 **かりやマーブルタウン** [令和元年度まちづくり活動]

事業の紹介



補助金額 **20 万円** / 総事業費 **42 万円**

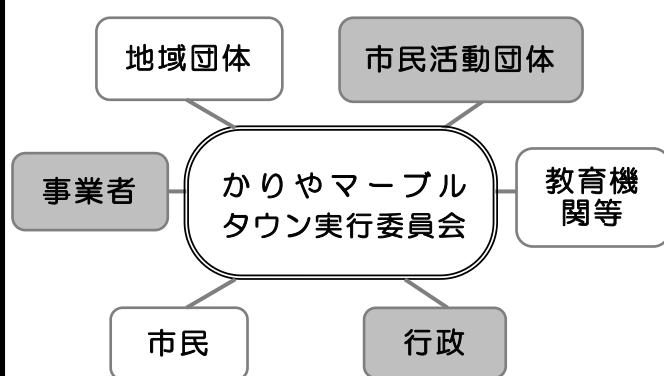
「マーブルタウン」とは、子どもたちが主体となってまちをつくる「こどものまち」事業の1つです。自分たちの力で挑戦し、自立性、協調性、発想力を育むことを目的としています。参加対象は小学生。“ハローワーク”で仕事を請け負いマーブルと呼ばれるお金（仮想通貨）を稼ぎ、“問屋”で資材を購入して、自分のやりたい仕事を出店します。また、“国王選挙”を実施して国王を選出。自分たちのまちをよくするために体験を通して学びます。

「かりや夢ファンド補助金」は、小学校に配布するチラシ、会場費、出店用の備品の購入費として活用されました。



段ボールを使ってやりたい仕事を出店

協働の役割分担



市民活動団体 〈役割〉	NPO 法人コラボキャンパス三河、ぎふマーブルタウン実行委員会 〈ボランティア、運営協力、広報協力〉
事業者 〈役割〉	マイライフ刈谷 〈ボランティア、運営協力〉
行政 〈役割〉	刈谷市、刈谷市教育委員会 〈後援、広報協力〉

取組みの流れ

こんな想いでスタートしました

マーブルタウンはドイツの「ミニ・ミュンヘン」を参考に2009年頃から各地で展開されてきました。その理念である「子どもが挑戦し、成長する学びの場」に感銘を受けた代表の石田さん。普段は学校の先生ですが、教育に携わる中で、学校とは別の学びの場が必要だと考え、地元刈谷で開催したいと考えました。近隣の開催時にボランティアとして経験を積み、そこで出会った団体や仲間呼びかけて団体を設立されました。

こんな準備をして取り組みました

刈谷では初めての開催のため、先行するぎふマーブルタウンやあいちマーブルタウンの経験者に協力を得て、準備を進めました。おおよそ月に1回実行委員会を開催し、職業ブース、コンセプト、役割分担について話し合いました。インターネット上で寄付を募るクラウドファンディングに取り組み、107,500円の支援を受け、活動に取り組みられました。

こんな点を工夫しました

コアメンバーにはメディアや福祉、まちづくりなどの分野で活躍する人が多く、多様なアイデアを出し合いました。会議を円滑に進めるために、PC等を活用。その場で編集した資料をすぐ展開できるようにしました。刈谷らしさを「発明」ととらえ、失敗と挑戦を通して学ぶことに着目。刈谷オリジナルの職業「科学者」を取り入れました。

- 「まちづくりコーディネーター」は、刈谷市民のまちの課題を「自分ごと」と考え、取り組んで行くために、参加のよびかけ・対話・活動の運営をお手伝いしています。



- ★「かりや夢ファンド」は、刈谷市民が「刈谷のまちをよくしていく」活動を応援する補助金制度です
【問合せ】 刈谷市役所 市民協働課 TEL0566-95-0002 詳細は市ホームページをチェック！>>

こんな活動をしました！

日 時：2019年9月7日（土）、9月8日（日）10時00分～15時00分

場 所：愛知教育大学 講義室4部屋を使用

参加者：小学生のべ180名（1日目67名、2日目113名）運営者+ボランティア計60名

広報媒体：チラシを市内小学校に配布、SNS（Facebook、Twitter）、刈谷ホームニュース等

内 容：仮想都市マーブルタウンで[仕事][選挙][買い物][起業]などを体験します。

現場の様子

国民カードを作り住民に→好きな職業を選ぶ→働いてお金を稼ぐ→国王選挙→出店料を役所に納め起業→貯まったお金でお買い物

- ・運営者・ボランティアスタッフ以外は立ち入り禁止。保護者は子どもたちが準備する「マーブルタウンツアー」でのみ会場に入れます。
- ・子どもはそれぞれの職業になり生き生きと活動。スタッフも手を出しすぎず笑顔で対応していました。保護者は安心したのか、別室でゆったりと過ごす様子が見受けられました。

こんな効果がありました

参加した小学生は、職業体験、納税、起業、国王選挙など様々な体験を通じて、主体的に役割を果たすことを学び、大人が立ち入れない場所で子どもが育つ姿を見た大人にとっても、手を出してしまいがちなことに気づく機会となりました。運営側では、準備の中で企業の関係者や団体、様々な人と繋がることができました。ボランティアは子どもと触れ合え楽しかったとの意見がありました。

こんな課題がありました

刈谷での開催をきっかけに参加したスタッフもあり、半数は初めての経験とのことでした。準備段階における連絡・連携の課題として、物品等の確認が不足したり、確認事項などの共有ができなかったりした点もあつたようです。会場確保は直前まで苦労されましたが、スタッフとつながりのあつた愛教大の先生の紹介により、大学の講義室を借りることができました。

今後に向けて

大学・企業・ボランティア団体等、様々な繋がりが出来ました。この勢いによって、次の展開も考えています。子どもに、もっと色々な体験をしてもらえるような活動に発展させていきたいといった声が出ています。刈谷のまちづくりの一翼を担うことを目指して活動しており、地元の多様な方と一緒に活動していきたいと思っていますとのことです。

参加者の声

マーブルタウンでの職業から一言

（国王に選ばれて）「国民に税金を配りたい」

（議員になって）「国王と最後にイベントを開きたい」

子ども

「1日目に問屋の社長になり、楽しかったから、今日も社長をやりに来た」

「友達に誘われてきた。来年も参加したい」

保護者

「すごく楽しかったと言っている。来年も是非」

主催団体の声

・「子どもたちが自分で考えて行動している姿と見て、やって良かったと思いました」（運営）

・「2年前岡崎で開催されていた際に参加し、素晴らしい活動だと思い今回も参加しました。参加して良かったです。」（ボランティアスタッフ）

取材を終えて…まちコの感想

- ・子どもへのインタビューで「〇〇したい！」という意見が沢山出ました。自分のやりたいことを叶えようと、イキイキと活動する子どもの姿が見られました。運営者、ボランティアにとっても実りの多いイベントだったと感じました。（鈴木）
- ・打合せでは、メンバー全員が成功に向けて熱意を持って取り組まれていた点が印象的でした。1つも妥協せず全員が納得するまで話し合いが行われ、時間をかけた分、充実した内容となりました。熱意があちらこちらに分散しないよう、代表を中心に話をまとめていて、会議を取りまわす技術についてもまちコとして勉強になりました。（加藤）